

No.

89

鳥取県高P連会報

Contents

- 高P連会長挨拶…………… 1 □2019年度総会報告
 □第61回中国・四国地区 県高P連表彰…………… 7
 高等学校PTA連合会大会鳥取大会概要 研究協議要旨…………… 2～3 □第69回全国高P連大会京都大会報告
 高校生による発表…………… 4～5 県立高校PTA会長・校長名簿
 養老孟司氏講演概要…………… 6 令和2年度各種大会等の予定…………… 8

発行所 / 鳥取市扇町 21
 県民ふれあい会館内
 鳥取県高等学校 PTA 連合会
 TEL / 0857-27-0730 FAX / 0857-27-0739
 E-mail / tori-kop@gamma.ocn.ne.jp

「ご挨拶」

鳥取県高等学校PTA連合会会長 西川 昌孝
 (鳥取県立鳥取西高等学校PTA会長)



令和元年6月に開催されました、鳥取県高等学校PTA連合会総会にてご承認頂き、今年度の県連会長を拝命致しました、鳥取西高等学校PTA会長の西川昌孝でございます。県連副会長大下、秦野両氏をはじめとする県連役員の皆様、事務局としてつかりと連携し、そして全県の各校PTAの皆様と情報共有・交換し、より良い県連PTA活動となりますよう邁進して参ります。皆様の更なるご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

また、今年度は中国・四国地区高等学校PTA連合会会長、全国高等学校PTA連合会理事に選出されましたこと、併せてご報告させて頂きます。全国・文部科学省、中国・四国地区、各単会の会長の方々との情報、意見交換などを行い、良き情報、施策を持ち帰り、当会活動に繋げていければと情報収集に努めて参ります。同時に、一意見を発言する立場となりましたので、鳥取県をはじめ、中国・四国地方で抱える高校教育に関する不安、問題点を意見上程して行きますので、ご意見等を積極的にお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

本年度は7月12日(金)に中国・

四国地区高等学校PTA連合会大会鳥取大会を皆様の絶大なるご協力により、盛会に終えることが出来ました。会の盛会はひとえに、鳥取県立高校PTA会員の皆様のご協力、ご参加によるものであります。併せて鳥取県高等学校長協会の御船先生をはじめ、各校の先生方に厚く御礼感謝申し上げます。校長先生方の大会への積極的なご協力とご参加につきましては、全国高P連会長をはじめ中国・四国地区関係各位からも驚きと称賛の言葉を多数頂きました。鳥取県の先生方は、高校PTA活動に対し、多大なるご理解とご協力を頂いていることに、改めて気が付き、改めて感謝することとなりました。大会当日は、養老孟司先生のご講演には深く考えるきっかけを頂き、高校生のアトラクションには、若きエネルギーをもらい、研究協議ではこれからのPTA活動に新しいヒントを与えて頂きました。

このような中国・四国地区高等学校PTA連合会大会は今回は61回目であり、当然ながら61年間の歴史があり、我々は60年以上この活動を行なっているということです。どんなに新しい技術革新があったとしても、我が子らの親は我々なのです。では、私たちが親としてなすべき事、親らしい事とはいかなる事なのでしょう。子どもたちに何かを買

い与えたり、進路に積極的にアドバイスする事でしょうか。「子育て四訓」には「青年は目を離せ、心を離すな」とあります。この先更なる自立を求められる高校生には強く、遅しなうって欲しいと切に願うと同時に、我々もそのようにしなければなりません。

また、子どもたちは、未来から現在に送られてきた、大切な留学生です。その留学生に、我々大人は一番近くに居て、さも尤もらしいことを言える立場なのです。子ども達と共に学び、未来の為に、未来から来た留学生と語らい、絆を深め、育んで行きましょう！

高校生である我が子らと共に語らい、親子の絆を深めることは、我々保護者にとって大変貴重な時間であることは間違いありません。後ほんの少しの時間で、大人になって巣立ってしまう我が子らと共に、我々もこれからの将来に向けて夢と希望を持っていくようではありませんか。我々大人が人生を楽しんで、これからの将来に夢と希望を持つことで、前途洋々たる我が子らはその何倍も人生を楽しんでくれることでしょう。その為にも、PTAを楽しく活動して頂くことで、先生方と保護者の方々と建設的な意見交換・交流の場になるはずです。また、そのようにして頂きたいと願ってやみません。

そして、新しい時代に向けて、この歴史と経験を生かして、子ども達の翼を広げ、未来に羽ばたかせ、我々親は巣立ちを応援しようではありませんか。

第61回中国・四国地区 高等学校PTA連合会大会鳥取大会概要



「ひらけ翼！はばたけ未来！」県立ち応援、親力！！をテーマに開催された鳥取大会は、養老孟司氏の講演、県内3校の高校生による発表、3校の研究発表により、充実した大会となりました。

研究協議要旨

【議長団】

広島県高P連副会長 久保田勇治 氏
鳥取県高P連前理事 松浦 啓介 氏

「親のせなか」～子どもの未来のために～

広島県立三次中学校・高等学校 PTA顧問（平成30年度PTA会長） 法野谷 智 氏



本校は、明治31年に広島県3番目となる広島県第三尋常中学校として創立し、昨年度120周年を迎えた歴史のある学校です。近年では、リオデジャネイロオリンピック競泳女子平泳ぎで金メダルを受賞した金藤理絵さんなど、スポーツ、経済、芸能、政治、芸術等の多方面で卒業生が活躍しています。そんな歴史のある学校ですが、今年春に中高一貫教育校として中学校が併設されました。

「親のせなか」の発刊

「親のせなか」は、平成20年度創立110周年の節目を記念し、PTA企画による記念事業の一環として発刊したものです。保護者から子供に向けたキャリアアドバイザーの文集のようなものです。今から約20年前、さまざまな社会環境の変化により、進路の目的意識が希薄なまま進学し、就職しても長続きしないなどの現象が起こり、定職を持たないフリーターやニート、新卒者の早期離職の七五三現

象が発生・増加した時期でもありました。そうした時代背景の中で、子供たちの夢の実現や将来の人生設計を確かなものにしてもらいたいとの思いから、PTAとしても積極的にこの問題にかかわっていかうと考えるようになりました。



本校は今年で創立133年を迎えます。明治19年に山陽英和女子校として開校され、資金難や戦争による校舎の焼失など幾多の苦難を乗り越え、現在は高校4コース、中学2コースの計689名の女子生徒が学んでいます。また、明るく気さくで親切な

「愛と奉仕」そして感謝 ～133年を振り返って～

山陽女子中学校・高等学校 緑会元会長

渡邊 孝一 氏



自動車の部品製造会社に勤務している保護者Aさんは、「自分たちが作った部品が自動車に取

りつけられ、多くの人が利用されていることは、社会に対して貢献していることを実感しています。しかし、製造業は、不良品を作ったそれをお客さんに納品してしまうことがありません。そういったとき、日常の業務の中で、品質管理や生産性向上、低コスト化などを常に考え改善を繰り返しています。学校生活やクラブ活動を頑張る中で、必ず壁に当たりますが、誰もこの壁を乗り越えて成長していくものです。そういった経験が、将来必ず役に立つはずなので、諦めずに頑張りたいと思います。」という作文でエールを送っています。

本校PTAは、「親のせなか」の発行のほかにも数々の取り組みを行いながら、子供たちとかわりを持っていきます。PTA活動に積極的に参加されている保護者は、皆楽しそうに活動していただい

「山陽さん」と呼ばれ親しまれています。第6代上代淑校長先生のもとで「愛と奉仕」を教育理念とする学校の礎を築かれました。

「緑会」(PTA)活動

我が校のPTAは、スクールのオーリーブグリーンから「緑会」と称して活動しております。保護者と教職員とが協力して学校及び家庭における教育に関し、理解を深め相互に学び合うことを活

本校のPTA役員ですが、会長、副会長、事務局長、事務局次長、監事、顧問で構成されています。専門委員会は、3つの委員会

「PTAと所掌事務」



学校の協力体制を推進する
2 学校教育の理解による

動の目的としております。学校、家庭、地域のかけ橋となり、山陽女子の応援団であり、よきパートナーであります。

緑会の組織は、会長、副会長、監査の執行委員と研修部、保護部、バザー部、みさお祭物販部の4つの委員会と構成されています。各委員会には定数を設けておらず、毎年参加できる保護者の自主性による希望を募り、選出しております。

〔緑会〕の特色

緑会では、学校の教育理念である「愛と奉仕」、そして感謝の精神に賛同し、特別養護老人ホームを月2回訪問し、入所者との触れ合いを大切にしながら、洗濯物たみ奉仕を40年以上継続しています。この活動には、一般の保護者も多数参加しています。平成30年度は、月2回延べ100人以上の保護者に参加していただきました。

〔緑会〕運営の積極的改善

緑会では、ボランティア活動であるからこそ、思いやりや気遣いの中での改善を図り、よくしているという意識が組織を高めています。PTAは面倒で負担の多いものといった先入観を取り除く努力を行っています。

1 保護者と学校の協力体制を推進する
2 学校教育の理解による

PTAの組織は、会長の下に4つの担当副会長がおります。

研修部では、進路セミナー開催や地元鳥取大学のオープンキャンパスに参加しています。

師弟同行を旨としています。学科は普通科と理数科があり、各学年7学級です。本校は、進学校ですが、部活動も盛んで、運動部、文化部ともに全国大会に出場しています。

主な卒業生は、山下佐知子さんや小山裕史さんです。小山裕史さんは、初動負荷理論を用いたスポーツジムを経営され、元中日の山本昌投手、イチロー選手のトレーナーをされています。それと、鳥取市長の深澤義彦さんも卒業生です。

〔本校PTA活動の概要〕



鳥取東高は、大正11年に鳥取二中として開校しました。校風は、規律ある自由な校風、

〔大切にしたい思春期の食生活〕

鳥取県立鳥取東高等学校 前PTA会長 網谷 憲治 氏

共有を目指す積極的改善等、5つのポイントを考えています。みんなが納得する形で会を運営するというのは大変なことですが、非常に大事なことだと思っています。

〔オープンスクール懇談会と地区別説明会〕

平成28年度より学校と共同で生徒募集の地区別説明会や、オープンスクールの来校された保護者との懇談会を開催しています。説明会では、保護者同士で学校の教育活動、部活動、行事の紹介や進学の様子、PTA活動の様子などを

同じ目線での忌憚のない情報交換を行っています。

山陽女子中学・高等学校は、2020年4月に、共学の新たな山陽学園として生まれ変わります。

これからは緑会は山陽ファミリアの応援団であり、よきパートナーとして生徒の一人一人の可能性や夢の実現に向けて教職員と協力し、本校をさらに地域に愛され魅力のある学校へと成長させていきたいと考えています。

〔健康生活部の取組〕

健康生活部は、思春期の食生活について活動を行っています。全校アンケートを年に2回とり、その中から見えた課題がありました。各学年とも朝食を食べていない家が3%ありました。体調がよいと答えた子供の朝食の品数が多いことが分かりました。

そこで、食育への取り組みの目的として、「親も子供も食べ物の知識を習得する。さらに子供が自分で調理できる力を養う。」としています。取り組み内容は、1年目に東高の学食「おせっかい食堂」で定食の試食をしました。続いて、食に関する講演会、調理実習を開

〔親から子に伝える生きる力〕

催しました。また、「おせっかい食堂」の食育フェアメニューの立案や配膳のボランティアを行いました。2年目には、講演会を実施し、保健だよりに関心するメッセージを掲載いたしました。また、歯科衛生士をお呼びして、食事と歯の関係についての講演とブラッシング指導を実施しました。3年目の今年度は、講演会や調理実習を引き続き行います。学祭では、保護者が模擬店を出してみようということになっていきます。また、食事に関するリーフレットを発行したり、管理栄養士のアドバイスをもとに、旬の食材や簡単な調理を保健だよりに掲載しようと考えております。

取り組みの成果ですが、日々の食事や弁当づくりに対して、保護者の意識が少しずつ変わりました。また、子供も食に関して関心を持つようになってきたということがわかりました。けがをしない体づくり、気力や体力を養うためには、毎日の食事が非常に大切であるということを学びました。思春期の食生活は、将来に大きく影響します。親から子に伝える生きる力として、子供たちが自分の食事は自分で考え、作る。自分で生きる力を身につけて欲しい。そうなるように学校と協力しながらやって参



部長の住山夏海さんと副部長の吉田桃歌さんに話を聞きました。
 こんなに大勢の方の前で演奏することは少ないので、とても緊張しま



当日の朝9時から、大会受付中のホワイエで、参加者への歓迎セッションをしていただきました。
 ジャズが流れる中で



した。でも、拍手してくださったり、笑ってくださったりととても盛り上げていただいたので、やったなという充実感があります。
 高校でのジャズのビッグバンドは、山陰では岩美高校だけです。毎年たくさんのお客様に出場させていただいています。地域の方々と距離が近いのいいかなと思っています。

街がスウィングする♪

鳥取県立岩美高等学校「Blue Martin Jazz Orchestra」

本校のジャズバンドは吹奏楽部を前身として2009年7月に結成。バンド名はBlue Martin (青いイワツバメ) Jazz Orchestra。岩美高校のマスコットキャラクター「イワツツ」にちなんだ名前です。



現在、校内外を含め年間で約30回の演奏活動を行っています。内容は地域のイベントや地元岩美町の式典、そしてジャズを中心とした音楽イベントが中心です。

本日は各地よりお越しいただいた皆様に渾身のスウィングをお届けします。

2013年にジャパン・ステューデント・ジャズ・フェスティバル（神戸文化ホール）に初出場。2014年と2017年にそれぞれ1名が個人の部「ナイスプレイヤー賞」受賞。そして、昨年2018年に山陰地方史上初の団体の部「優秀賞」を受賞しました。



ひらけ翼！はばたけ未来！

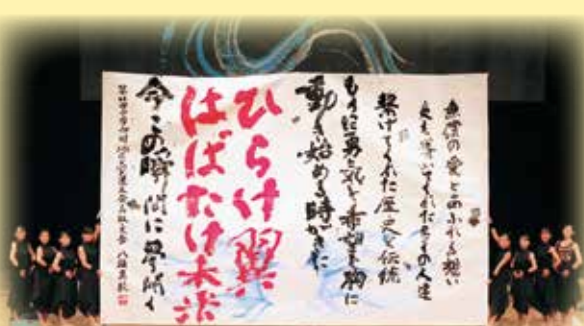
鳥取県立八頭高等学校 書道部

現在部員数は3年生5名、2年生8名、1年生3名の計16名です。日頃は中国や日本の古典学習も行い、各種コンクールでの入賞を目標に作品制作に取り組んでいます。近年は地元の商品のロゴを揮毫したり、地元イベントのために作品を作成したりする中で、地元の企業や地域の方々との繋がりを大切に活動しています。

また、2017年度には、鳥取県とジャマイカとの交流事業のため、現地で書道パフォーマンスを披露するなど、「書」を通じた国際交流も経験させて頂きました。

人と人とを繋げる「書」の可能性と、自らの進化を求めた書への願いを追い求めていきたいと考えています。そして、「書」の可能性を信じ、今出来る自分達の「力いっぱい」をここで表現したいと思います。

本日は、皆さまとの繋がりとこの大会への感謝の想いを込めた、「書道パフォーマンス」を披露させて頂きます。まだまだ未熟ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。



Jazz Orchestra 吟詠剣詩舞部 書道部



思っ
今
の
剣
舞
、
扇
舞
の
練
習
日
と
吟
の
練
習
日
と
分
け
、



部長の小泉来海さんと副部長の坂本透夏さんに話を聞きました。吟詠剣詩舞部は、鳥取県では、鳥取湖陵高校1校だけです。入学したときの部活紹介で、先輩方が踊られる姿を見て格好いいなと



終わったときに、この部活をやっていた良かったと思える演技ができますよう頑張ります。

外部からの指導者に来ていただいています。佐賀県での全国大会が近いので、もっと完璧に仕上げたいです。吟と舞との一体感を大事にし、演技が



今回は、ダンスのビデオを見て、その動きを取り入れ、格好よくショーになるようにこの衣装を着ました。このような機会をいただけたのも、たくさんの方との縁があつてのことなので、感謝を忘れず頑張っていきたいと思っています。

「戦国の武士（もののふ）を詠（うた）う」

鳥取県立鳥取湖陵高等学校 吟詠剣詩舞部

吟詠剣詩舞部は、前身校の鳥取県立鳥取西工業高等学校に平成6年創部され、平成7年度より全国高等学校総合文化祭に合同出演、平成24年度より単独校で、毎年出演しています。鳥取県唯一の吟詠剣詩舞部となりました。今年度の部員は、1年生3名、2年生4名の合計7名。1年生は、7月末の全国大会に向け、時間が少ない中、必死に剣舞・扇舞・吟を練習しています。

また本部の活動として、毎年、地元にゆかりのある荒木又右衛門に関する演目を荒木神社、玄忠寺に奉納しています。

今回披露するのは、全国大会と同じ「戦国の武士（もののふ）を詠（うた）う」です。「川中島の戦い」と地元の武将吉川経家を取り上げました。吟といえば「川中島」というくらいおなじみなものです。また今回の扇舞は扇子を1人2本使用します。剣の動作を扇子でします。まだまだ未熟ですが、精一杯演じますので、温かく見守ってください。



高校生による発表



岩美高等学校
鳥取湖陵高等学校
八頭高等学校

Blue Martin

部長の3年大谷愛奏鈴さんと2年米井梓さんに話を聞きました。

大会テーマに沿って、皆さんと一緒に未来へ向かっていこうという思いでパフォーマンスしました。言水先生から

この大会がきっかけという話を聞いて、めぐりめぐって私たちがこの大会で演技させて頂けるということに感謝し、つながりつつ大事だなという思いです。ありがとうございます。

今回は、ダンスのビデオを見て、その動きを取り入れ、格好よくショーになるようにこの衣装を着ました。

このような機会をいただけたのも、たくさんの方との縁があつてのことなので、感謝を忘れず頑張っていきたいと思っています。



顧問 言水先生

【顧問の言水先生から】

鳥取県の書道パフォーマンスは、10年前の愛媛大会がきっかけ

10年前、当時は鳥取東高校に勤務していましたが、総務担当として、愛媛大会に参加しました。その時、生で愛媛県三島高校の書道パフォーマンスを見ました。一緒に参加したPTA会長、副会長さんたちに「ごんちゃんもやれよ」と背中を押していただき、多くの方々の協力を得て、初めて鳥取で書道パフォーマンスをさせていただきました。実際やるとなったら、シート、紙、筆、道具などどうすればいいのか、学校、保護者、生徒皆さんに助けていただいて、校内の文化祭でしたのが最初です。

このたび地元の鳥取大会で発表の機会をいただき、八頭高の生徒たちと恩返しができるということを大変ありがたいと思います。

養老孟司講演概要

養老流親と子の話

くたくましく生きる力



大会の開会行事に引き続き、養老孟司氏にご講演をいただきました。内容をかいつまんでご紹介します。

人口減少の時代に

若い年齢層の人口が減少しているが必ずしも悪いことばかりではない。今まで人口増が続き、人の価値が低い時代が続いていたが、人口減少により人そのものの存在価値が高まり、特に若年層の人たちが貴重な存在になる時代になる。

田舎暮らしの人間関係とは

若者たちは人間関係が鬱陶しいからと田舎暮らしを敬遠する。しかし、人間関係の鬱陶しさというのは一種の保険である。例えば、育った田舎で家を買うのと都会に出て家を買うのでは安心感が違う。田舎で買う場合は売り手も買い手も互いのことをよく知っていることが多いが、都会ではそうはいか

ない場合がほとんどだ。保険とはこういうことで、現代人はさまざまな形の保険をかけ、人間関係をお金に変えていったといえる。

父の死

父の臨終に際し、当時4歳の私はさよならを言うことができなかった。想像するに、親が死ぬという全く理不尽な、納得がいかないことに対し、唯一、さよならと言わないことで父の死を認めなくて済む、父を生かしておくにはそれしかないと考えたのだろう。その体験が、挨拶が苦手な私を作り上げたのではないかと考えたことがある。人が普通でなかったり、当たり前のことができなかったりするとき、親としてはいろいろな心配すると思うのだが、場合によってはこういう理由が隠れていることがある。それは、本人が気づいて、意識化しない限り治らない。

現代の親子関係

人が成熟し、一人の判断で人生を送ることができるようになるのは難しいことだ。例えば、親から暗黙のうちに受け継いだ価値観が世間に普通に適応していればいいが、そうでない場合、必ず何か軋轢が起こる。例えば、結婚した男性が妻の価値観をとるか、母親の価値観をとるかというのはその典型。さらには、

子を立派に育てたいという親の気持ちと、親から自立したい子の気持ちという構図もある。その点では祖父母と孫くらの関係がちょうどいい。

AIの行く先

AIは便利だ、効率的だ、経済的だと言われて開発されている。しかし経済性、合理性、効率性を求める社会のありかたでよいのだろうか。コンピュータにしてみれば生きている人間は全てノイズでしかない。つまり現在我々は、我々が自身がノイズになる社会を作ろうとしている。自分の子どもが将来どういう世界を生きていくのか。社会の中心は何なのか。もう一度考えなくてはならない時代になった。**自分の身についたものだけが財産**自分にとつての財産とは何か。それは、どれだけの土地を持っているとか、どれだけ株を持っている

かではない。自分の身についたものだけが財産なのである。それはどこに行っても使え、盗まれる心配もない。時代が変わっても自分の身についたものは誰も盗ることはできない。若者はお金を求め給料のより高いところにいるとすると、真面目に働き、自分の身に何か能力が備われば結果としてお金はついてくる。



養老氏の講演を聴き、激動の時代にあつては子どもたちの将来について、親も子もしっかり考えなくてはならないと痛感しました。(文責 会報編集委員 岡田 優)

講師 東京大学名誉教授 養老孟司氏

昭和12年 神奈川県鎌倉市に生まれる
昭和37年 東京大学医学部卒業
1年のインターンを経て、解剖学教室に入る
以後解剖学を専攻
昭和42年 医学博士号取得
昭和56年 東京大学医学部教授に就任
東京大学総合資料館長、東京大学出版会理事長を兼任
平成7年 東京大学を退官
平成8年 北里大学教授に就任(大学院医療人間科学)
平成10年 東京大学名誉教授
平成15年 北里大学を退職
平成元年 『からだの見方』(筑摩書房)でサントリー学芸賞を受賞
平成15年 『バカの壁』(新潮社)で毎日出版文化賞を受賞
平成18年 京都国際マンガミュージアム館長就任

主な著書

- 「身体の文学史」「バカの壁」「死の壁」「超バカの壁」「養老訓」他(新潮社)
 - 「ヒトの見方」「からだの見方」「解剖学教室へようこそ」他(筑摩書房)
 - 「養老孟司の“逆さメガネ”」「本質を見抜く力」他(PHP研究所)
 - 「毒も薬になる話」「こまった人」「まともな人」(中央公論社)
 - 「養老孟司のデジタル昆虫図鑑」(日経BP社)
 - 「虫捕る子だけが生き残る」(小学館)
- など多数

2019年度
総会報告

本年度の定期総会は6月8日（土）、県立倉吉体育文化会館において県教育長山本仁志様を来賓にお迎えし、開催した。

例年11月に開催の研究大会の際に行っていた高P連表彰式を、今年度からは総会の前に開催することとした。受賞者38名中、16名の出席があり、鳥取東高前PTA会長の網谷憲治氏が代表受領され、謝辞をいただいた。

総会では、平成30年度の会務報告、会計決算及び2019年度の事業計画、予算並びに2019年度全国高P連会長表彰の推薦について原案通り承認された。

また、今年7月12日(金)開催の第61回中国・四国地区高P連大会鳥取大会についても協議がなされ、了承された。

最後に役員改選があり、会長に西川昌孝氏（鳥取西高）、副会長に大下哲夫氏（鳥取中央育英高）、秦野啓一氏（米子東高）3名とも再任された。新役員は下表のとおり。

2019年度県高P連表彰者一覧

鳥取東高
鳥取東高
鳥取西高
鳥取商業高
鳥取商業高
鳥取工業高
鳥取湖陵高
鳥取湖陵高
鳥取湖陵高
鳥取湖陵高
青谷高
青谷高
岩美高
智頭農林高
智頭農林高
智頭農林高
倉吉東高
倉吉東高
倉吉東高

網谷	憲治	尾室	真郷	尾崎	佐智子	谷尾	ゆかり	原田	幸栄	谷口	博昭	大森	芳久	高田	裕子	藤本	裕子	濱崎	公嗣	尾崎	浩一	長田	かずみ	宮本	光博	山本	美和子	田中	清子	森	美恵子	吉岡	学	立木	文子	上山	千晶
----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	---	-----	----	---	----	----	----	----

倉吉東高
倉吉西高
倉吉農業高
倉吉総合産業高
鳥取中央育英高
鳥取中央育英高
鳥取中央育英高
米子東高
米子西高
米子西高
米子西高
米子西高
米子西高
米子高
米子南高
米子工業高
境高
境高
境高
境高

[illegible]

2019年度 鳥取県高等学校PTA連合会役員

役 職	氏 名	所属高校
会 長	西川 昌孝	鳥 取 西
副 会 長	大下 哲夫	鳥取中央育英
”	秦野 啓一	米 子 東
理 事	上田 博光	八 頭
”	堀江 司	米 子 西
理事（校長協会長）	御船 斎紀	校長協会（倉吉東）
”（〃 東部会長）	尾室 真郷	鳥 取 東
”（〃 中部会長）	穴戸 靖雄	鳥取中央育英
”（〃 西部代表）	永野 智之	米 子 南
”	山本 英樹	鳥 取 西
”	田中 宏	米 子 東
監 査	岩崎 伸一	鳥 取 商 業
”	衣笠 優子	倉 吉 東
”	福井真奈美	境港総合技術

平成30年度 鳥取県高等学校PTA連合会決算書

収入の部

(単位：円)

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B)―(A)	備 考
負 担 金	5,711,750	5,687,059	△ 24,691	全日制 500円×11,179名=5,589,500円 特・特支250円×79名=19,750円 私学中心で高負担金 77,809円
補 助 金	1,166,000	1,166,000	0	県補助金 1,016,000円 教育公務員弘済会 150,000円
前年度繰越金	1,465,060	1,465,060	0	
繰 入 金	0	0	0	
手 数 料	1,080,000	995,344	△ 84,656	団体保険手数料 833,274円 全高P給賞啓発活動費 162,070円
雑 収 入	190	4,344	4,154	預金利息他
合 計	9,423,000	9,317,807	△ 105,193	

支出の部

(单位: 円)

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B)－(A)	備 考
会 議 費	300,000	230,688	△ 69,312	総会、役員会等
事 業 費	2,195,000	1,949,137	△ 245,863	
研 修 費	650,000	475,311	△ 174,689	県指導者研究大会等
地区研修活動費	810,000	810,000	0	東・中・西部 各270,000円×3地区
活 動 費	100,000	84,636	△ 15,364	会報編集委員会経費、表彰関係
広 報 費	610,000	567,496	△ 42,504	会報発行 (87・88号)
事業事務費	25,000	11,694	△ 13,306	総会資料等
運 営 費	5,720,000	4,939,439	△ 780,561	
人 件 費	3,480,000	3,260,180	△ 219,820	事務局職員給与
旅 費	900,000	726,528	△ 173,472	全国、中四会長・事務局局長会議等
運営事務費	170,000	72,196	△ 97,804	消耗品、HP年間維持経費等
借 用 料	190,000	172,500	△ 17,500	事務局部屋使用料、光熱費、冷暖房費等
通信運搬費	200,000	161,217	△ 38,783	電話・郵券・宅配料等
渉 外 費	190,000	141,218	△ 48,782	前会長全国表彰関係経費
社会保険料	560,000	378,400	△ 181,600	社会保険料、労働保険料
雑 費	30,000	27,200	△ 2,800	福利厚生、お茶代他
負 担 金	480,000	453,178	△ 26,822	全国高P連、中四高P連等
租 税 公 課 等	90,000	86,400	△ 3,600	法人県税・市税81,000円、税理士報酬5,400円
退職積立金	100,000	100,000	0	
予 備 費	538,000	0	△ 538,000	
合 計	9,423,000	7,758,842	△ 1,664,158	

第69回全国高P連大会 京都大会報告

第69回全国高等学校PTA連合大会京都大会が、令和元年8月22日(木)・23日(金)、京都市で開催されました。これまでのPTA活動の財産を継承し、今後のPTA活動の発展向上を期待して、「Yesから!未来を拓く」をメインテーマに開催されました。全国各地から1万人近くの参加がありました。鳥取県からも21校78名が参加しました。

本年度は京都と近いため、中部地区はバス1台に乗り合わせて参加させていただき、益々交流を深めることができました。昨年の佐賀大会では4会場に分散しての開催でしたが、京都は国際会議等数多く開催されていますので、平安神宮近くのロームシアター京都と

みやこめっせの2会場で開催されました。みやこめっせには、映像配信での対応でした。

1日目は開会式の後、5つの分科会に分かれての研修でした。私は第4分科会に参加しました。「高校生の人間関係について考える」というテーマで、テレビでもお馴染みの原清治氏の講演の後、昨年度まで地元の高校生だった4名の方たちとのパネルディスカッションが行われました。事前打ち合わせなしの本音を、笑いを引き出しながらの進行は大変参考になりました。他の分科会に参加された方たちの話を聞いても大変良かったということでした。

大会2日目の記念講演は、日本電産株式会社社長 永守重信氏の「学校教育・家庭教育に思うこと」のテーマで講演を聞きました。自身の生い立ちから世界のトップに上り詰めて見えてきたことから、

■全国高P連会長表彰■

開会式において表彰式が行われ、本県からは次の方が受賞されました。誠におめでとうございます。

○個人表彰

網谷 憲治 氏(前鳥取東高会長)
松浦 啓介 氏(前米子西高会長)

○団体表彰

倉吉総合産業高等学校PTA
境高等学校PTA

■PTA広報紙展示■

鳥取東高等学校 「鳥東高通信」
倉吉東高等学校 「倉東だより」



2019年度 県立高校PTA会長・校長名簿

所属校	会長名	校長名
鳥 取 東	吉澤 春樹	尾室 真郷
鳥 取 西	西川 昌孝	山本 英樹
鳥 取 商 業	岩崎 伸一	岩田 直樹
鳥 取 工 業	市村 幹也	上原 正樹
鳥 取 湖 陵	岡田 頼昭	濱崎 公嗣
青 谷	森本 綾子	小川 勝
岩 美	竹島 伸吾	山中 洋介
八 頭	上田 博光	中島 靖雄
智 頭 農 林	白岩 智之	大塩 朋
倉 吉 東	衣笠 優子	御船 斎紀
倉 吉 西	山田 琢伸	稲毛 靖
倉 吉 農 業	横川 力	河本 達志
倉吉総合産業	音田 光	徳田 章人
鳥取中央育英	大下 哲夫	穴戸 靖雄
米 子 東	秦野 啓一	田中 宏
米 子 西	堀江 司	富田 運一
米 子	長谷 勝巳	笹川 康詩
米 子 南	山城 伸一	永野 智之
米 子 工 業	新宮美津代	龍田 浩史
境	岩本 和貴	田辺 洋範
境港総合技術	福井真奈美	田中 宏明
日 野	西村 和宏	内仲 弘

なぜ現在大学経営に関わるようになったのか、これからの教育に必要なこと、子どもたちが何を大事にして、勉強、社会に向かうべきか、今の会社、大学の現状を踏まえて熱く語られ、胸に深く響きました。アトラクションも、京都らしい高校生たちの発表を見せていただき、感銘を受けました。最後に、昨年は県団の懇親会ができませんでしたが、本年度はからすま京都ホテルにて開催されました。大変良い交流ができ、鳥取県PTAのまとまりを再確認できました。

次年度は隣県の島根県で開催されます。県内から多くの参加がある



令和2年度各種大会等の予定

- 鳥取県高等学校PTA連合会総会
6月 中部地区
- 中国・四国地区高等学校PTA連合会大会広島大会
7月10日(金) 広島市「広島市文化交流会館」
- 全国高等学校PTA連合会大会島根大会
8月20日(木)、21日(金)
松江市「くにびきメッセ
～島根県立産業交流会館～」他
- 鳥取県高等学校PTA指導者研究大会
11月 西部地区

ことを期待して報告いたします。
(文責 高P連副会長 大下哲夫)